

<2026 年、新年挨拶>



代表理事: 連健夫

JCAABE 会員の皆様、明けましておめでとうございます。当団体は良質な建築、美しいまちづくりを目指す社会改善型の一般社団法人として設立9年目を迎えました。

これまでに認定まちづくり適正建築士、登録まちづくりファシリテーター、ADR 調停人という建築まちづくりに関わる専門資格の仲間が200名を超えました。文科省事業で開発した「JCAABE 建築系まちづくりファシリテーター養成講座」は、専門学校や大学で実施すると共に、文化庁委託事業、カイロ旧市街の保存まちづくり活動においてエジプトの建築家や専門家に実施しました。これらの活動が日本建築学会教育賞と日本工学教育協会工学教育賞の受賞につながりました。一昨年実施した「日常と非常時をつなぐデザインコンクール」を昨年、作品集としてまとめ、第2回の実施に向けて進めています。

今年度は、これらの活動の成果を積極的に社会に実装するスタート年となります。つまり攻めの展開段階に入ったわけです。昨年の総会において、「JCAABE 実装タスクフォース委員会」が承認され、議論がスタートしました。この進捗内容については適宜、会員に報告、共有し JCAABE 総力で進めていきます。

これには、他団体の協力や連携が必要です。JIA 建築家大会 2025 千葉では、シンポジウムやまちあるきワークショップに協力し、参加建築家にファシリテーター講義や資料提供等の協力をしました。千葉市、行政と大学との連携が実現しました。

当団体は、**建築・まちづくりの専門性を表示する資格とそのための研鑽**を主軸に活動しています。これは第三者への能力表示という意味で、発注者や住民の判断材料となり、行政における専門家派遣制度の拡がりの中で、今後ますます大切になってくると思われます。メタデザイン(直接的なデザインではなく間接的なデザイン行為)という言葉が注目されていますが、当機構の活動にも関連すると思っています。

今年度は、会員間における対面での懇親やコミュニケーションの機会を増やしていきたいと思っています。この一年、皆様にとって意味ある年になることを心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。